

第1回 伊方町総合教育会議議事録

【日時】 令和元年9月20日（金）15：00～16：35

【場所】 伊方町役場3階 特別応接室

- 【次第】
1. 開会
 2. 町長あいさつ
 3. 教育長あいさつ
 4. 議題
 - (1) 伊方町教育振興に関する大綱について
 - (2) その他
 5. 閉会

【構成員】 伊方町長 高門清彦

伊方町教育委員会

教育長 河野達司

教育長職務代理者 阿部勇二

教育委員 藤川美喜

教育委員 阿部弘喜

教育委員 道元 平

【事務局】 町長部局

濱松副町長、橋本総合政策課長、ほか担当職員1名

教育委員会事務局

菊池事務局長、ほか担当職員3名

【傍聴者】 なし

【15時00分開会】

(橋本総合政策課長)

皆様お揃いでございますので、ただ今から、第1回伊方町総合教育会議を開催いたします。

開会にあたりまして、町長からご挨拶をお願いいたします。

(高門町長)

第1回の伊方町総合教育会議という事で、大変お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

通算4回目になりますが、今回から道元委員にもご参加いただいて会議を持ちます事を感謝申し上げます。

この教育会議の趣旨は、教育委員会と行政で連携を十分にとって、町民の教育行政を前に進めていこうと思っております。ぜひ皆さん方が日頃から感じている事を率直なご意見としてお伺いし、行政としてできる事、できない事があると思っておりますが一緒になって教育行政の推進をしていくように頑張りたいと思っております。課題は山積していますが、1つ1つできる事からやっていきたいと思っております。忌憚のないご意見、ご提案をお聞かせいただきますようお願いを申し上げまして、開会のあいさつとさせていただきます。よろしく願いいたします。

(橋本総合政策課長)

ありがとうございました。続きまして、河野教育長からご挨拶をお願いいたします。

(河野教育長)

教育委員会を代表しまして一言ご挨拶を申し上げます。平成28年度に伊方町の教育振興に関する大綱を策定して頂きました。教育委員会では、それに基づき4つの施策の方針や総合教育会議の中で協力した内容を元に、各種新しい課題も出てきております。本日も会議を開いていただき忌憚のない意見を交わしていただき、今後の伊方町の新たな方向性を共有し、教育行政が更に推進していきますようお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

(橋本総合政策課長)

ありがとうございました。当会議の進行につきましては、私、総合政策課長の橋本が会議の進行を進めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。それでは会議を進めて参ります。

本日は、「伊方町教育振興に関する大綱について」を議題といたします。

まず、教育振興に関する大綱の施策の方針に沿った本年度の取り組み状況について、事務局から説明願います。

(菊池教育委員会事務局長)

それでは、施策の方針に沿った本年度の取り組みについて、説明いたします。

お手元の、2ページ「伊方町教育振興に関する大綱」をお願いします。この大綱の、施策の方針が4ページにございますので、ここにあります4つの方針に基づきまして、本年度、教育委員会が取り組んでいる施策等について説明いたします。

まず、方針1の「学校教育の充実」に関しましては、保育所、学校、家庭、地域との「横の連携」の強化を図り、これからの時代に求められる「生きる力」の育成に重点をおいた教育を推進しております。

中学校では、英語によるコミュニケーション能力の育成、小学校では、英語学習による異文化にふれあい、国際感覚の醸成に資するため、外国語指導助手・ALTを適正に配置しております。

ICT情報教育については、平成26年度以降、電子黒板については、小・中学校に設置し、タブレットについては、既に全小学生に配備しており、今年度中には、全中学校に配備が完了することにより、小・中学生が一貫したICT情報教育の推進が図られ、さらに、昨年度に全小中学校にエアコンを整備したことにより、授業に集中できる環境との相乗効果により、学力の向上に資するものと期待しております。

また、いじめ防止対策推進法に基づき、いじめの防止等のための対策について、基本理念を定め、町、教育委員会、学校及び学校の教職員並びに、保護者の責務を明らかにするとともに、町の施策に関する基本的な事項を定めることにより、いじめの防止等のための対策を総合的かつ効果的に推進することを目的とした「伊方町いじめの防止に関する条例」が、昨日の議会におきまして、可決・成立いたしましたので、いじめに関する施策をより一層推進して参ります。なお、条例の内容につきましては、先日送付させていただきました「資料1」のとおりですので、後ほどお目通し願います。

次に、方針2の「生涯学習・生涯スポーツの活性化」に関しましては、各世代、各地域のニーズに応じた学習活動の活性化に取り組むとともに、心身の健康増進につながる生涯スポーツの普及に努めております。特にスポーツの推進に関しては、「スポーツ推進計画」の策定をはじめ、これに基づく施策を推進することとしており、今年度もスポーツに対する関心を高め、プロスポーツを実感してもらえらるる機会を提供として、「プロバスケットチーム・オレンジバイキングス」の公式戦が、2月1日、2日に実施される運びとなっております。

次に、方針3の「伝統・文化の継承と発展」に関しましては、佐田岬半島の伝統文化と文化財を守りながら、地域の魅力づくりにつなげるため、今年度は「地域博物館構想」の具現化に向け、6月に基本構想の策定を終えました。基本構想の内容につきましては先日送付させていただきました、「資料2」のとおりですので、後ほどお目通し願います。なお、現在は、次のステップとなる「基本計画の策定」に向けて検討を進めているところでございます。

また、町内の地区や地域の有志による任意団体が、主体的に実施する歴史的な背景に基づき、町外の地域・団体間との継続的な交流事業に対し、20万円を限度に補助する「伊方町歴史文化交流事業補助金交付要綱」を1月に創設し、今年度4月からスタートしております。この要綱の内容につきましては、先日送付させていただきました「資料3」のとおりですので、後ほどお目通し願います。

最後に、方針4の「信頼と協働で創る豊かな地域社会の構築」に関しましては、人権文化を根付かせるため、地区別人権・同和教育懇談会をはじめ、各種研修会への参加を支援し、町民が一体となった人権・同和教育を引き続き推進しております。

説明は以上です。よろしく願いいたします。

(橋本総合政策課長)

ありがとうございました。ただ今、教育委員会から教育振興に関する大綱の施策の方針に沿った本年度の主な取組状況について説明がありました。

それではこの大綱に基づいて、いかに本町教育の充実を図っていくか、これから、意見交換を行いたいと思います。どなたからでも結構ですので、ご発言をお願いいたします。いかがでしょうか。

(阿部勇二委員)

3ページの合力(こうろく)という言葉が出てきますが、これが今でも受け継がれていて大変ありがたい。ぜひ今の子ども達にもボランティアを通して助け合いの気持ちを大切にしてほしいと願っています。

まず、学校教育の充実が4つの中でも我々の念頭にあり、少子化で住民も少なくなっただう子ども達に郷土愛を持ってもらうか、伊方町出身である事を胸にグローバルな社会に出てもらいたいし、そういった子どもに育ててほしいものです。

平成23年に学校統合についてある程度決まったそうで、今年の水ヶ浦小学校の統合で一段落ついたそうです。子どもの減少に歯止めがつかないのはご存じのとおりですが、大久・三机小学校は複式になっており解消できない状況です。三崎小学校もそのうち複式になりそうです。もう一度、統合について考える時期になるのではないかと思います。教育委員会にも行政にも問われる問題であり、私達も真剣に取り組むべきだと思っています。現状を見た中で統合についてどのような考えをお持ちなのか、今お答えできる範囲で答えてもらったらと思います。

(高門町長)

私からも問いかけようと思っていた問題です。確かに一段落した今、5年後、10年後を見据えて考えなければなりません。次の段階は小・中一貫校になるという事も含めて、どういう選択をすればいいのか教育委員会の中で検討してもらえたらと考えます。

スクールバスは10月から地域バスとしても利用させてもらうという話にな

っています。エアコンも昨年度整備されたが、10年見越して再編調整をすればいいのかなと思っています。また、廃校の利用も考えてもらえたらと思います。

当面の課題としては、伊方地区の放課後児童クラブの場所を校内にと保護者からの意見があります。保健福祉課がしっかり考えていますが、どのようなあり方がいいのか、教育委員会と検討して頂きたいです。

(阿部勇二委員)

小規模校の利点を最大限に活かし、小規模校である事の値打ちを維持したいと思っています。小学生の間は生活圈、地域の中で勉強させたいと思っていますが、実際は生活圈外の学校にスクールバスで通っているため、あいさつ等地域の人との関わりが減っています。伊方地域と瀬戸地域が統合したとしても10～20分バスの時間が延びるだけで、自分の生活圈で勉強するのは無理になっています。少しでも多い環境の中で競いながら、色々な人との付き合いの中でやれた方がいいのかなと考えます。どうしても小規模校で複式になると、授業の半分が自習になるのでその分をICTを活用したりできますが、昨年度も言いましたように複式支援の先生を募集しても無く、教員免許がいるとなると限られます。どうしても複式の厳しい状況を打破できません。伊方小学校を建て替えるかという話が出ていますが、将来1校になる事を見据えて、早い段階で町民の意見をまとめながら理解してもらえるように、大きな統合を見据える時期だと思っています。

(高門町長)

2つの要素が考えられます。1つは子どもの数、もう1つは今言われたように小学校1年生に1時間もかけて通学させる、通学距離の問題です。それを合わせてこれから考えなくてははいけません。

(濱松副町長)

生活圈から距離がある児童の放課後の対応について、地域での受け入れも必要だと思います。公民館活動の拠点づくり、社会教育の受け皿をきちんと作らないといけません。その辺りの充実が大切ではないでしょうか。

(阿部弘喜委員)

何通りかシミュレーションを行い、示した方がいいのではないのでしょうか。これからが大変だと思います。

(藤川美喜委員)

瀬戸地域の中では協同学習をしており、別の地区の子ども達と接する機会を増やす事で、統合がスムーズに行われるのではないかと思います。

(阿部勇二委員)

郷土が好きで町や地域が好きという精神が大きくなれば、必ず伊方町が好きになるんです。1時間もかけて遠い学校に通って郷土愛が育つのか。最終的に伊方

町が好きという子どもに育ててもらいたいというのが目標ですので、矛盾するが統合して大きな学校にするか、なんとか小さくとも地域関係のある学校にするかです。

いつからという事になると、今から23年度に決めた事が終わった時点から色々な事に耳を傾けるべきではないかと思います。色々と話しが聞こえてくるのが多いのは中学校です。具体的な話として瀬戸中と三崎中を1つにするか、10年先どうなっているか、1つになるなら今のうちに話をしておくか色々なパターンを想定し、同時に教育委員会だけでなく、地域全体で子ども達の受け皿はどうするか議論すべき時期になったと思います。

(高門町長)

皆さんの考えを聞きたいのですが、タブレットを導入して小・中学校に配備したが、小学校1年から中学校3年まで使用しそのままあげたら良いと思います。どうローテーションしたら良いでしょうか。

(濱松副町長)

小学校で渡してもらって、再度、中学校で渡すと聞いています。

(阿部勇二委員)

タブレットは学校に置いており、家には持って帰れません。いずれタブレットで宿題ができる時代になるかもしれないが、今は学校内の使用のみです。

(河野教育長)

補助金の制度上は縛りがあり、学校のみとなっています。

(篠澤学校教育室長)

導入する際に学校に保管庫を構えていますので、国からは設置する中で、学校から家に持って帰るのは制度上駄目と言われました。

(道元平委員)

タブレットは学校の備品としての扱いで充分だと思います。個人が持つ必要はないと思います。

(高門伊方町長)

色々な考えがあると思いますが、本当に持ち帰りは駄目なのか教育委員会にて確認してください。

(河野教育長)

お金の出どころが駄目と言うだけで、先進地では持って帰っている事例もあります。

(高門町長)

小・中学校と使って自分のタブレットとして管理し、中学校卒業時にプレゼントするというやり方はできるのかどうか。タブレットは何年更新になりますか。

(篠澤学校教育室長)

国からは制度上、学校に何台設置するか申請・補助金説明で言われましたが、卒業後にあげるのには駄目です。更新時期は、7～8年となります。

(濱松副町長)

学校現場に合わせた形を調べてもらって、目的外になりますがこういう実態ですと説明し、理解を求めていく事も必要ではないでしょうか。

(藤川美喜委員)

新しい教科書にはQRコードが入ってますし、タブレットを有効活用した方がいいのではないのでしょうか。

(藤川美喜委員)

エアコンの整備について、快適な環境になり感謝しております。

防災教育の中で、各学校においても訓練が具体的なものになっています。地域の中のハザードマップを作ったり、自分達でどう避難するか、保護者とどう連絡をとるか等具体的な学校訓練が行われおり安心いたしました。子ども達が育っていく中で自分の身を守り、地域の事も守るような子に育ってほしい。その辺を含め例えば、震災や避難を経験した地域が身近にありますので、そういった所から意見を聞く機会をもっと持っていたら今後プラスになっていくのではないかと思います。町の行政でもそういった人達にアンテナを張り巡らせていると思うので、そういう機会をしっかりと持ってもらいたいです。

スクールバスについて、一般の方が一緒に乗るのが少し不安だと言う声があります。何かあった時の対応はどうか、あれば教えて頂きたい。

(高門町長)

体験談を聞くというのは、今から危機管理室の方に繋いでみます。

スクールバスの件については、一般の人が乗るのは不安と言うのは聞いていますが、大人が乗るので安心という声も聞いています。何かあってはいけないので保護者に対応してもらおう方式も考えられます。行政では、スクールバスの運転手に不審者は乗せないように徹底します。

(藤川美喜委員)

実際にやってみないと分からないですが、事件があった時に対応しなければなりません。

(濱松副町長)

運行規定の変更により心配されている事に全ての対応ができるか分かりませんが、運転手に権限を与えて監視・監督等の条件を入れて対策いたします。瀬戸地域で運行して15年経ちますが、そういう事は今のところ事例はありません。

(阿部勇二委員)

スクールバスの協議も色々な事が分かった上でやって頂く事なので、子どもと一般の人を乗せて良いのかはどれを取るのかと言う事になります。大阪の事件の様に、十分な対策をしても防ぎようのない事があります。

(阿部弘喜委員)

都会であればバスでも電車でもぎゅうぎゅう詰めの中、1人で乗っている子どもが通学している事を考えたら、スクールバスは、乗るのは知った人ばかりで安心かと思います。

(阿部弘喜委員)

学校へエアコンも整備してもらい、ITも充実した中で、今回スポーツ推進室ができて室が増えたので、町長に意気込みをお聞きしたい。伊方町民ができるスポーツという事で、健康のためになるし、和気あいあいという事でしょうけれども、町長の意思も入れればいいと思うのですが構想はありますか。

(高門町長)

具体的に伊方町で何をするか、まだ具体策は出ていません。これからどう進めていくかはやっていかなくてははいけません。八幡浜市では体育館でできるカーリングの道具を揃えたりしています。まず、町民がどういう事をやりたいのか、各地域で熱中している競技も違うようですし、統一した競技といのはなかなか決めるのは難しいと思います。できるだけ住民のニーズに沿った形で、町はハード整備が基本になると思います。その辺はニーズを拾いながら生涯スポーツができるような体系は、町が整えたいと思っております。

(阿部弘喜委員)

マンダリンパイレーツも交渉していて、国体バレーが来て活発にしようという機運がありました。今1つという感じです。予算を付けるなら、有名なコーチとか監督を呼んでみたりはどうでしょうか。

指導を1年間来てしてもらおうなら面白いかと思います。宇和島市では、小さい頃から柔道を練習する取り組みが定着しています。それによってレスリングや柔道に行ったりするみたいです。これも生涯スポーツの取り組みの1つだと思います。今一番定着しているのが高齢者のペタンクとゲートボールなんですが、毎日しており生涯スポーツの名のおりだと感じます。

(濱松副町長)

昨年から計画し取組みをしています。今言われたように有名な方を呼ぶのもスポーツイベントの1つとして非常に効果的だと思います。しかし、先ほど言われたように国体をしてどうだったのかと聞かれた時、花火を上げたようではいけないのではと思います。この計画の中でスポーツ団体との連携が出てくるが、どうスポーツ団体を育成していくのか、内と外とのパイプ役をどうするのか、この計画に魂を入れていくためにスポーツ推進室を新設しました。

(阿部弘喜委員)

町内の中学生が20人くらいに減って、まともな部活動ができなくなっているのが父兄が心配しているところです。これらとスポーツ推進を絡めて、思うような部活動もできたらと思うのでお願いします。

(道元平委員)

伊方町に帰ってきて15年になり、佐田岬みつけ隊というボランティアグループに設立時から入っています。区長会にて、あこう樹の落ち葉をなんとかしてほしいと言われたので手を挙げ、毎月1回清掃活動を行っています。合併して垣根が無くなったので、色々な石垣、天井絵馬の調査に行く時などどこでも行けるようになりました。

町見郷土館は瀬戸・三崎地域にまだ資料があるが、そろそろ限界がきているのではないかと思います。郷土館のようでもなくても良いので、収蔵庫という形で一括して保管して、災害に心配しなくても良い場所にできればと思います。地域振興センターがありますが、避難場所として立地もよく安全なので、資料館のようなものを建ててはどうでしょうか。展示室、美術館という空間であれば、災害の時にも利用できると思います。

(高門町長)

現在、副町長をトップに委員会を立ち上げて行っています。

(濱松副町長)

三崎地域の収納物の管理は限界だと思います。瀬戸地域の方も整理ができないという事です。全て置く必要はないので、できれば整理を兼ねて1箇所にという事で、町長に二名津小学校跡地に収納場所を統一したらどうかと提案されました。校舎も体育館も鉄筋と木造で防災の物も収納しております。また、串中学校跡もあのまま放置せず、活用した方がいいのではないかと、空いている所をどう利活用するか高嶋館長とも相談して、大学の先生方にも入っていただいて整理されている事が大切です。どこに集中して収納するか協議すべきだと思います。

もう1つ私の方からお願いがありますが、町内に文化財が指定されています。瀬戸地域の神崎の神楽が5月の連休にあり、余所からきた人が通りがかりに見に行ったそうですが、非常に素朴でいいと言っていました。しかし、関係者の人に聞いたら人がいないためもう限界だとの事でした。外部に後継者育成として募集

をしてみてもはどうでしょうか。

(道元平委員)

地域おこし協力隊があるじゃないですか。郷土館とかの地域おこし協力隊を派遣とかあれば良いと思います。新しい学芸員を育てるという意味も兼ねて、色々興味を持ってもらえたらすごくいいなと思います。

(高嶋町見郷土館長)

各地域に保存されていますが、当然寄贈された町民の方の思いもあり、地域を学ぶ教材としても活かしていかなければと思っています。状況としては、施設として古い小学校跡とかに入って状況は悪いのですが、数年前から完了はしています。別府大学の民俗を習っている学生さん達が通ってきてもらって、特に生産・漁業等地域性の現れやすい道具を中心に整理作業をし、台帳が整理されつつある状況です。佐田岬ならではの文化とか地域性を表す資料は引き続き整理をしていますが、引き継がれるようにしています。今後はハード面でどうするかという所で、話を進めているところです。

神崎神楽の後継者の方も、まず地元子ども達に接する機会があればと思います。しゃんしゃん踊りも子ども達が見に来れないという状況がありますし、それを繋げられる事ができたらと思っています。例えば、八幡浜市の川名津神楽は中学校で保存会ができており、地元の人に愛着を持ってもらえるように、事業の機会になればと思っています。

(道元平委員)

盆踊りの口説きも、地域で歌える人がだんだんいなくなっています。

(高門町長)

そういうソフト面からのアプローチと、行政としてハード面をどうしていくかが課題です。

(道元平委員)

防災の面を考えると、施設は新しい方がいいと思います。複合的に併用して使えるような施設がいいと思います。

(高門町長)

遊休施設の活用法も今のうちに考えてもらえたらと考えます。

(道元平委員)

旅館を経営しており、県外の人に伊方町はどこにあるのか聞かれます。どこから伊方町なのか、入口が分かりにくい。役場も生涯学習センターと道路を挟んでいるが、一体化して自由に行き来できるような形になればすごく使いやすいと思います。

今月、地元で70代の夫婦が帰って来られ、地域の方が親戚の人の家をリフォームして帰ってきてもらうように呼びました。移住も余所の人を呼ぶのではなく、伊方町出身の人に老後になってから自分の田舎に帰りたいたいと言う人がたくさんいて、そういう人を地域の方が呼んであげるような形をとれたら面白いと思います。帰ってきた人は昔の話をよく覚えているので、伝統・文化の話を聞くのも面白いです。地域の方が、県外に出た人を呼べるような形をとるのも考えられます。

(高門町長)

大阪のふるさと会でも、地元に戻りたいという人がいました。帰ってこれる環境づくりも必要です。

(道元平委員)

地域の方が呼んだら帰ってきやすいと思います。古くなった家のリフォームの補助でも出ればありがたいです。地元に戻って来たいような人は、地元の大工さんとか気軽に声をかけられる人に仕事を頼むと思います。

自分の所の家があるのに帰ってこれない人がたくさんいます。お盆の時は宿泊に来る人が多いです。お墓参りに帰ってきたが、1年ぶりの家で泊まれない、寝れないという人が多いです。三崎高校にお孫さんが入学してくれてる子がいるので、同じように転入してくれたら良いなと思います。

(高門町長)

三崎高校の件で町としても、生徒のPRをして選択肢の1つとして行ってもらいたいです。

(阿部勇二委員)

子どもに地元愛を持って育ててほしいと思っているが、三崎高校生を見るとそれをひしひしと感じます。三崎高校生ほど今いる環境を誇りにしながら生きています。もちろん指導力もあると思います。今までの先輩たちが少しずつ変えてきた事をしており、伊方町の事をよく考えてくれています。ありがたい事です。

(高門町長)

伊方の放課後児童クラブは、学校に作ってもらえたらという事ですがどうですか。

(阿部勇二委員)

地域からもできたら学校の中にと意見があったが、どうしても駄目な時期がありました。今回、校長からもOKの話が出ました。

(高門町長)

来年度、伊方小に建設するという事で進めても問題はないでしょうか。

(菊池教育委員会事務局長)

飼育小屋跡地に建設を予定しています。

(高門町長)

学校再編について、どの程度の枠組みが考えられますか。

(阿部勇二委員)

中学校への意識調査をすぐにやっても良いと思います。そういう機会が欲しいという声をよく聞くし、どこに言えばいいのかと言われます。具体的な話をしたら、三崎中学校が今年男子バレーで優勝して県大会に行きましたが、昨年まで瀬戸中学校と合同チームでした。色々な制約があって別々でできる時は別という事でしたが、新人戦は合同になります。子どもにとって中・高校生時の影響は少ないものではありません。部活動を通して成長できる部分はあると思います。意識調査を、今すぐ行う必要があると思います。

(高門町長)

子どもの数は、今後増えますか。

(河野教育長)

これから5年間くらいは今より増える事はないのですが横ばいで、5年後は少なくなる見通しです。地域の方から義務教育学校にする場合は、どうすればいいのか聞かれました。それに対応しておかないと地域から学校がなくなると言っており、伊方に行くのかと心配されていました。特に、中学校の部活動が難しくなっているので、部活動ができる学校に行きたいという保護者や生徒がいるのは確かです。

(高門町長)

八幡浜市に出る子はいますか。

(藤川美喜委員)

部活動をやりたいと八幡浜市の方に行く子はいます。先ほども言われたように学生にとって部活動は、地元愛、友達との関係等に影響があると思います。できたら部活動は、瀬戸・三崎地域で1つ、伊方地域で行うのはどうでしょうか。

(阿部弘喜委員)

子ども達にとって部活動は青春の1つですが、したい部活がない状態です。先生と話をしたが、三机の住民は伊方の方が近いから伊方に行きたいという声があるし、こちらで決めるのではなく様々な声を聞いて決めていただきたい。瀬戸・三崎地域の方は心配している状況です。

(阿部勇二委員)

部活が学校生活を占める割合は大きく、部活に夢をみている生徒もいます。

(道元平委員)

クラブがあればいいのですが、したいスポーツをする場所があるだけでも全然違います。個人的に自分の得意な部分を伸ばせる受け皿があれば良いですね。

(阿部勇二委員)

大久小・三机小は人数が厳しいため、10年もたないのではないのでしょうか。

(高門町長)

内容をよく精査して、教育委員さんとも相談して、教育委員会でアンケートをしてもらいたいです。

(高門町長)

博物館は、どのような状況ですか。

(高嶋町見郷土館長)

急ぎたいので、がんばります。

(道元平委員)

もっと教育現場に出てもらったらいいと思います。収蔵庫としての役割のみでいいのではないのでしょうか。

(高嶋町見郷土館長)

毎月1回企画展をまわしており、様々な角度で地域を見るようにしています。

(高門町長)

収蔵庫として町見郷土館は良い環境でしょうか。水ヶ浦小学校は耐震も大丈夫で、収蔵庫としても使えると思います。

(高嶋町見郷土館長)

建物自体は耐震が良いので、収蔵庫としては良いと思います。アクセスが良い所で展示ができればいいと思います。子ども達の話で地元愛を育むのは、佐田岬といえど見せられるものが大事だと思うので、博物館ができれば良いと日々思っております。

(高門町長)

しっかりしたタイムスケジュールを立てて、早めの対応をお願いします。

(道元平委員)

ワンダービューを昨年からしていますが、映像権は町が持っていますか。映像を企業に貸して売り込みをしたらどうでしょうか。契約してCMに流してもらう方法もあります。

(高門町長)

町が持っています。現状として、映像を作ったら終わりでお蔵入りしています。

(阿部弘喜委員)

先ほど70代の方が帰ってきたという話がありましたが、帰っても働く所が無いというのが大きい原因だと思います。農業やって稼げたら良いのですが後継者は増えません。増やそうと思ったら条件の良い所は廃園になっています。廃園を町と農協が協力して地主から買い上げて整備します、買いたい人を募集する方法を取る。それをやってくれたら若者が残って農業をしてくれるのではないかと思います。伊方町は基盤整備が遅れており、県内でも伊方町が一番廃園が多いです。

国や県がまとめて農協と一緒にやっていく。伊方町は一次産業でしか大きい会社はできないと思うので、人口を増やそうと思ったらそれに定着する人口を増やさないとなかなか難しいのではないかと思います。

(橋本総合政策課長)

そろそろ、お時間となりますので最後に、濱松副町長に閉会のご挨拶を頂きます。

(濱松副町長)

長時間にわたり貴重なご意見、誠にありがとうございます。来年は東京オリンピックがあります。それにちなんで何か我々国民として絡めないかという事で、スポーツ推進室をお願いしております。田舎でも何か1つ絡んでみてもいいかなと町長も希望しています。是非とも町民として何かできたらと思いますので、皆様の知恵を拝借したいと思います。本日はどうもありがとうございました。